

卒業生代表答辞

冬の厳しい寒さも次第に和らぎ、暖かな日差しが春の訪れを感じさせる季節となりました。本日は、私たちのためにこのような厳粛かつ壮麗な式を挙げていただき、ありがとうございます。ご臨席いただいた、真板竜太郎校長先生をはじめとする、皆様からの心温まるご祝辞や激励の言葉をいただき、卒業生一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

高校生活を振り返ると、行事や日々の学校生活、ともに三年間を歩んだ多くの仲間の姿が頭に浮かんできます。

三年前、私たちは不安と期待を胸にこの木更津総合高校に入学しました。初めは右も左もわからず、戸惑いばかりの学校生活でしたが、先生方や先輩方の温かいご指導と、家族の支えがあり、楽しい学校生活を送れたことを今でも覚えています。

私たちが一番印象に残った行事は真心祭です。体育の部では、各色が優勝を目指して切磋琢磨し合い、学校全体が強い熱気に包まれていました。学年を超えた繋がりができ、全校生徒約二千人の心が一つになる最高の思い出になりました。文化の部では、新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、多くの来場者を迎え、各クラス手の込んだ出し物を行いました。特に三年生の模擬店は、どのクラスも素早い連携でどんなハプニングも乗り越えることができました。他にも、全校で行ったバス遠足や球技大会、二年生の時の修学旅行など、どの瞬間を思い出しても仲間と楽しく笑い合っていた情景が思い出されます。この三年間、とても貴重でかけがえのない経験ができました。

私たちが三年間楽しく学校生活を送ることができたのは、多くの先生方のおかげです。私たちに寄り添ってくれた先生方、時には優しく、時には厳しく指導していただくこともありました。ですが、今考えると、どんな時も先生方は私たちの味方であったのだと感じます。進路活動においても、面接練習や相談など一人一人真剣に向き合ってくださいました。そのお陰で、私たちは自らの進路に自信を持って進み出すことができました。先生方の存在は私たちにとって、とても大きなものです。三年間、本当にありがとうございました。

在校生の皆さん、先ほどは、心のこもった送辞をありがとうございました。皆さんには、行事や委員会、部活動など様々な場面で支えていただきました。先輩である私たちが学びを得ることもあり、私たちの学校生活には在校生の皆さんの支えが不可欠だったと思います。次にこの木更津総合高校を作り上げていくのは皆さんになります。今までの伝統に加え、さらに新しい木更津総合高校が誕生するのを楽しみにしています。

そして忘れてはならないのが、三年間どんな時もそばで見守り、私たちのことを信じて支えてくれた家族の存在です。時にはお互いの主張がぶつかり、厳しく叱られてしまうこともありました。ですが、それも私たちのことを誰よりも考えていてくれたからであり、そのお陰で私たちも正しく前へ進むことができました。毎日作ってくれたお弁当や、家を出る時の「行ってらっしゃい」の一言など、何気ない生活で当たり前のように思っていた事も、今では大きな支えになっていたと、改めて実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちはこれから自立し、いつか巣立つ時が来ると思います。必ず恩返しをするので、もう少しだけ見守っててください。

そして、共に過ごし、共に学んだ卒業生の皆さん。三年間ありがとうございました。この学校で出会い、三年間という時間を過ごし、今日共に卒業できることを心から嬉しく思います。

これから私たちは、それぞれの道へと進み、時には乗り越えることが困難な壁に阻まれることがあると思います。しかし、この三年間で得たものが無くなる事は決してありません。この木更津総合高校で得た経験を大切に、新たな未来を自分自身の力で切り開いていきましょう。

最後になりますが、校長先生を始め、諸先生方、事務室やバスの運転手の皆様、私たちに関わって下さった皆様に感謝を申し上げ、木更津総合高等学校が、これからも素晴らしい歴史を刻んでいかれますことを祈念して、答辞とさせていただきます。

令和8年3月3日

卒業生代表 沖 琉雅